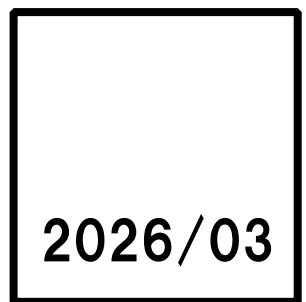




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
 全国有数の〈社史コレクション〉を
 さらに活用していただくため、
 社史の使い方や、社史の楽しさ、
 社史情報などをお届けしていきます。



当館の社史コーナーでは、「社楽」で紹介した社史を、第1号から順番に展示しています。

2月から展示している社楽 Vol.26 は、「人気企業に就職希望する前に、まずは社史を開いてみませんか。」として、「大学生が選んだ就職先人気企業ランキング2014」にランクインした企業の社史を、紹介しています。

そのまま展示すると、12年も前の情報を展示することになるため、最新のダイヤモンド活ナビ「大学生が選んだ就職人気ランキング2025年【夏】(2027年卒・就活前半戦調査)」に変更して、展示しています。

今号では、就活で社史を活用してもらおうきつかけになるように、社史にはどういう情報が掲載されているのか、どのように読んだらよいのか等といったポイントを、現在展示している社史を使って紹介したいと思います。

まずは、社史に掲載されている情報ですが、メインとなるのは、社史という名のとおりの「企業の歴史」です。

社史は、10年や50年等の周年に刊行されるため、最新の情報を得ることは向いていませんが、「歴史」が変わることはありません。その企業がどのように誕生したのか、どのように発展していったのかを知ることができます。

例えば、理系女子6位の資生堂の『創ってきたもの 伝えてゆくもの』(1992年刊)によると、「矢野義徹・前田清則・福原有信が三精社を興し、その事業としてわが国初の洋風民間薬局、資生堂を銀座(出雲町一六番地)に創業(一七日)(旧八月一五日)」とあります。

現在は化粧品で有名な「資生堂」ですが、医薬分業の推進を原点にスタートし、日本初の練り歯磨きの製造・販売等を経て化粧品業界

へと参入します。

しかし、美容と衛生ともに効果的であるとした「資生堂」の化粧品は、法的な規定が必要とされました。これを受け、1899年に内務省令で「売薬部外品」が規定され、予防や美容を目的とする化粧品にも一定の薬物的効果の記載が認められることとなりました。

このように、社史によって「資生堂」の歴史や、「資生堂」が日本の化粧品業界に与えてきた影響についても知ることができます。

また、「企業の歴史」以外にも社史には「社員インタビュー・アンケート」や「未来を語る座談会」等といった企業の雰囲気を感じられる情報も掲載されていることがあります。

次は、社史を読むときのポイントを紹介していきます。

(裏面へ続く)

就活で、社史を使ってみませんか？

(表面から続く)

皆さんは「社史」と聞くとどのような物を想像しますか？

社史担当になるまでの私のイメージは、自立するほど分厚くて重い本でした。イメージどおりの重厚感のある社史もありますが、現在は薄い雑誌のような手に取りやすいサイズの社史も多くなっています。

どちらであっても、社史を読むときのポイントとして、最初に「目次」を見ることをおすすめします。



例えば、理系女子5位の味の素の『味の素グループの軌跡』(2020年刊)は、A4サイズで128頁と薄めです。薄めのサイズの社史は、目次が1〜2頁でコンパクトにまとめられていることが多く、一目で社史の全体像をつかみやすい構成になっています。

各章に割けるページ数も限られているため、それぞれの項目についても、写真や図を使ってコンパクトにまとめられていることが多いです。

時間がない場合は、目次で気になった項目だけを読んでも、短時間で情報を得ることができます。実際に、味の素の100年の歴史は、6頁でまとめられていました。



文系男子・女子1位、理系男子2位、理系女子3位の伊藤忠商事の『峠越えの道』(2007年刊)も薄めです。

目次を見ると、日本語の横に英語が書かれているのが気になりました。

なぜ英語の記載があるのかを調べてみると、編集後記

に「海外のナショナルスタッフの皆さんにも理解していただけるよう大要の英文訳を添えて」と答えが書いてありました。目次を見るだけでも、世界各地に拠点をもつグローバル企業ならではの配慮が感じられました。



重厚感のある社史としては、文系男子9位、文系女子10位の大和証券の『大和証券百年史』(2003年刊)。

計測したところ約6cmととても厚みがあり、就活の前に少し見てみようかと思ってこのサイズの社史が出てきたら尻込みしてしまうかもしれません。目次は24頁あり、目次を見るだけでも一苦勞です。

しかし、ここであきらめないでください。目次を見るだけでも、その企業の姿勢を感じることができます。

例えば、目次にぎっと目を通すと「不祥事」という言葉を、複数見かけました。

気になって該当頁を読んでみると、社員が起こした不祥事の詳細やその改善に向けた取組みが書かれています。後世に記録が残る社史に、わざわざ頁を割いて「不祥事」について触れていることに、不都合なことを隠さず、反省し、次へと生かそうとする誠実な姿勢を感じました。



参考になりましたでしょうか？最初から全部を読もうとするのではなく、まずは今回紹介したようなところから、軽い気持ちで社史を手にとってもらえればと思います。

(企画情報課 峯山)

●問合せ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F

電話:044-299-7825 FAX:044-322-8878

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>

「大学生が選んだ就職人気ランキング」 2025年【夏】(2027年卒・就活前半戦調査)から

(株)ダイヤモンド・ヒューマンリソース調べ(2025.11月リリース)

URL: <https://shukatsu.jp/2027/navi27/ranking2026/>

※ 近年刊行の川崎図書館で所蔵している社史を、紹介しています。

※ 紹介した社史以外にも、社史を発行している場合があります。

※ 銀行や保険会社に関しては、合併前の社史を紹介しています。

※ 一部社史のない企業もあります。

理系・男子

	企業名	主な所蔵社史の例示
1位	丸紅	『丸紅通史』(2008年刊行)
2位	伊藤忠商事	『峠越えの道』(2007年刊行)
3位	三菱商事	『三菱商事50年史』(2008年刊行)
4位	三井物産	『回顧録』(1976年刊行)
5位	住友商事	『住友商事100年史』(2024年刊行)
6位	森ビル	『私の履歴書』(1993年刊) ※社史ではありません
7位	アビームコンサルティング	『トーマツ30年史』(2000年刊) ※2003年にグループから脱退
8位	Sky	社史等なし
9位	野村総合研究所	『野村総合研究所創立50年史』(2016年刊行)
10位	大和総研	『大和総研十年史』(1999年刊行)

理系・女子

	企業名	主な所蔵社史の例示
1位	丸紅	『丸紅通史』(2008年刊行)
2位	住友商事	『住友商事100年史』(2024年刊行)
3位	伊藤忠商事	『峠越えの道』(2007年刊行)
4位	森ビル	『私の履歴書』(1993年刊) ※社史ではありません
5位	味の素	『味の素グループの軌跡』(2020年刊行)
6位	資生堂	『創ってきたもの伝えてゆくもの』(1993年刊行)
7位	サントリーグループ	『日々に新たに』(1999年刊行)
8位	花王	『花王120年』(2012年刊行)
9位	三井物産	『回顧録』(1976年刊行)
10位	三菱商事	『三菱商事50年史』(2008年刊行)

文系・男子

	企業名	主な所蔵社史の例示
1位	伊藤忠商事	『峠越えの道』(2007年刊行)
2位	三井物産	『回顧録』(1976年刊行)
3位	丸紅	『丸紅通史』(2008年刊行)
4位	住友商事	『住友商事100年史』(2024年刊行)
5位	三菱商事	『三菱商事50年史』(2008年刊行)
6位	森ビル	『私の履歴書』(1993年刊) ※社史ではありません
7位	三菱UFJ信託銀行	合併前 『三菱信託銀行』(2002年刊) 合併前 『東洋信託銀行25年史』(1985年刊)
8位	あいおいニッセイ同和損害保険	合併前 『共感・共創・共生』(2011年刊) 合併前 『幸せへの挑戦』(2011年刊)
9位	大和証券グループ	『大和証券百年史』(2003年刊行)
10位	三菱UFJ銀行	合併前 『三菱銀行史 続々』(1999年刊) 合併前 『東京銀行史』(1997年刊)、 合併前 『サンワのあゆみ』(1983年刊) 合併前 『東海銀行史 続』(1982年刊)

文系・女子

	企業名	主な所蔵社史の例示
1位	伊藤忠商事	『峠越えの道』(2007年刊行)
2位	丸紅	『丸紅通史』(2008年刊行)
3位	住友商事	『住友商事100年史』(2024年刊行)
4位	三井物産	『回顧録』(1976年刊行)
5位	三菱商事	『三菱商事50年史』(2008年刊行)
6位	森ビル	『私の履歴書』(1993年刊) ※社史ではありません
7位	三菱UFJ銀行	合併前 『三菱銀行史 続々』(1999年刊) 合併前 『東京銀行史』(1997年刊)、 合併前 『サンワのあゆみ』(1983年刊) 合併前 『東海銀行史 続』(1982年刊)
8位	あいおいニッセイ同和損害保険	合併前 『共感・共創・共生』(2011年刊) 合併前 『幸せへの挑戦』(2011年刊)
9位	三菱UFJ信託銀行	合併前 『三菱信託銀行』(2002年刊) 合併前 『東洋信託銀行25年史』(1985年刊)
10位	大和証券グループ	『大和証券百年史』(2003年刊行)